

中世の松浦 (43) 鷹島海底遺跡

鷹島海底遺跡から出土している遺物の中でも数が少ないものをいくつか紹介します。

石製の硯が2点あります。長さ11センチ、幅7.2センチ、厚さ2.3センチ、重量33.8グラムのやや大型のもので、海部(水を入れたり磨った墨を溜めておく所で、墨池・硯沼・池とも言います)は長軸に沿って擦過状の傷が認められ、陸部(墨を磨る部分で丘・岡・墨堂とも言います)は海部に比べて丁寧に磨きが施されています。もう一個は小型で長さ7.3センチ、幅4.7センチ、厚さ1.3センチ、重量は93グラムを測ります。側面(硯旁・硯側とも言います)裏面は丁寧に取りと研磨が施されています。

なお、硯は出土していますが、筆や墨は未だ発見されていません。鷹島海底遺跡では、これまで約4千点以上の遺物が出土していますが、その中でも文字資料はものすごく少ないようです。

資料としては、「王百戸」の銘が墨書された青磁碗、漆塗りの木製品である筥に「元年殿司修検視訖官(花押)」と文字が書かれた資料、黒漆の地に朱漆を施し「辛酉四明諸二郎造」と書かれた碗の底部、朱塗りの碗に「張(花押)」の線刻が書かれたものなどがあります。これらの文字資料は、軍の編成や役職を知る大きな手がかりを与えてくれます。



▲石製硯 (左が小型、右が大型)



▲「張」の線刻がある碗

▲「辛酉四明諸二郎造」と書かれた碗



図書館の  
おすすめ本

市立図書館  
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで  
「松浦市立図書館」を検索



『わたしは99歳のアーティスト』  
三星静子/NHK出版

華やかで美しく大胆なデザイン。古い布を使って作られた布絵を作ったのは99歳の女性。デビューしたのは92歳。綴られた日々の暮らしや時々思うことからわたしたちに豊かな老い方を見せてくれます。作品も数多く紹介されています。じっくりご覧ください。



『お父さん、牛になる』  
晴居慧星/福音館書店

いつもと変わらない朝。和室で寝ていたはずのお父さんが牛になっていた。これまでお父さんを避けていたお姉ちゃんとおぼく、あしらっていたお母さん。そんなぼくたちの生活は一変。餌やふんの始末、近所の目、会社からの連絡。一体どうなる!?

◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆



ただひろ 志佐町高野免の益本 理広くん(6歳)と悠伸くん(1歳)

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どものお気に入りの1冊を紹介します。

【お気に入りの本】

『リンちゃんとしてんしゃ屋さん』

桃井太郎/さく 自転車産業振興協会

『すいすいすべりだい』

桑原伸之/さく あすなる書房

【お母さんからひとこと】

図書館は時々利用させていただいています。本の読みかきかしている時は兄弟仲良く一緒に座って聞いています。兄が自分で本を読んでいる時は、1歳の弟も兄の真似をして本を眺めたりしています。気に入った本は何度も読み返しています。

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館も大歓迎です!

なぎ  
なた  
薙 刀

ニュース  
Twe~et



○問合せ先 教育委員会生涯学習課  
国体推進室 ☎ 内線 311

## 長崎がんばらば国体 あと2年4月 “Go for 2014”

### ■ いざ出陣 第53回都道府県対抗なぎなた大会 (リハーサル大会)

平成24年5月26日(土)27日(日)東京都港区スポーツセンターで開催された第53回都道府県対抗なぎなた大会に“チーム凜心長崎”が出場しました。(松浦市からは萩原(写真左)辻(中)福田(右)3人が出場)

結果は3位入賞の香川県に敗れましたが、萩原監督代行は、「この悔しさを糧に来年松浦市で開催されるこの大会で雪辱を果たしたい」と決意を述べました。



### ■ 平成24年度(第64回)長崎県高等学校 総合体育大会 なぎなた競技開催

上記大会が平成24年6月2日(土)松浦市文化会館で行われました。松浦高校の結果は以下のとおりです。

(演技競技の部)

第3位 大久保・山中組

(試合競技の部)

第3位 山中美優希

※松浦高校の両名は6月24日(日)佐賀県嬉野市体育館で行われる九州大会に出場。



▲演技競技(左)山中(右)大久保

国体に参加する方法はいろいろあるよ…。応援、ボランティア、郷土物産店、手づくり記念品などみんなで参加して、市民みんなの大会にしよう!  
『がんばろう!チームまつうら!』



## Bye バイ

トロイ・ユウ・ルイス (Troy Yu Lewis)

アメリカ合衆国出身

私の松浦での生活もあとひと月足らずとなりました。

3年前、私が長崎県に住むことになったと祖父母に報告した時、祖父母はとても喜びましたが、松浦で働くと言ったら、「松浦ってどこ?」と聞かれたことを覚えています。ジョージア州の田舎出身の僕にとっては、多くの日本人が感じる程、松浦は決して田舎ではありません。むしろ田舎のよさがあるところ。人々は親切で、温かくて、よく手伝ってくれます。食べ物、特に刺身が美味しくて、松浦は世界のほかのまちと同じくらい素晴らしいものを持っています。私はここでのいくつかの思い出と共に旅立つつもりです。

有名なアメリカの詩人、ロバート・フロストは、「人生で学んだすべてを私は3語にまとめられる。それは、"It goes on" (何があっても人生には続きがある)」と言いました。思い起こすと、松浦では、日の出を見るよりもっと多くの新しい経験をし、多くの変化がありました。私の松浦での最初の友人、ナルは「一期一会」を开店し、結婚して子ども



が生まれました。ALTの事務担当をしている文子や先生たちやほかの多くの人たちも結婚して、子どもが生まれています。一緒にALTをしていたフィオナも結婚して、今は市役所で働いています。先生たちも異動でやって来て、友達になりましたが、今はもうどこかに転勤してしまいました。小学校で出会った子どもたちは成長し、中学生になりました。このように人生に終わりではなく、時間と共にさまざまな変化が現われ、続いていくと言えるでしょう。

私が松浦を発つとしても、ここでの思い出は一生私と共にあるでしょう。松浦で、素晴らしい人々と出会い、自分の人生について深く考えました。松浦が私にとってどんな意味があったのか、全部を言い表すことは不可能です。でも、松浦での生活が良いものだったことは間違いありません。皆さん本当にありがとうございました。皆さんの幸せを心から願っています。

